

通じ合うことの奇跡!

藤岡朝子 (YIDFF東京事務局ディレクター)

今年の映画祭はとにかく、通訳者泣かせになるだろう。上映作品数は212本。複数回上映されるものを数えると、のべ上映回数は全部で250以上。そしてゲスト200人近くをお迎えし、クリス・マルケル特集を除くほとんどすべての上映に、何らかのトークや質疑応答がつくことになる。つまり、お客さんの入替時間以外で客席の照明がついている間は、映画をめぐる言葉の花が各会場で咲き乱れっぱなし、ということだ。さらに今年は、映画上映のない、シンポジウムやディスカッションが目白押し。製作途中の映画企画について意見を交わす「ヤマガタ・ラフカット!」や批評執筆の技を磨くワークショップ。そして夜は香味庵クラブ。——この飛び交う言葉たちよ。

通訳者さんは日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語、ロシア語、スペイン語、フランス語、ベトナム語を駆使し

て、コミュニケーションを取り持つ。観客とゲストの予測のつかない応酬を、通じ合わせてくれる奇跡に、今年も出会える。

クロージング作品はYIDFFの大賞に名を冠するロバート・フラハティ監督の伝記映画。名作『アラン』が撮影されたアイルランドの孤島は、フラハティという苗字の人ばかりだったという。ドキュメンタリー映画の父はアイルランド系だったのだ。そして、アイルランド人気質は、好奇心豊富で話好きであること!

というわけで、ひときわおしゃべりがにぎやかな、今年ヤマガタへようこそ! ヤマガタらしさは、台本のないガチンコのライブ。開会式と表彰式にはさまれた連日、皆さんにとって驚きと発見と出会いに満ちたおいしい交流のチャンプルーとなるよう、一緒に作っていきましょう。